

その4

「移住者の呼び込み」と「島暮らし体験」

広島、大阪、東京で開催される定住促進のフェアなどへ参加し、西ノ島の魅力をPRしながら、漁師、看護師、介護士などを広く募集しています。また、定年後の第2の人生を過ごしたいという方も歓迎しています。

フェアなどでブースへ話をしに来られる方の多くは、自然の雄大な美しさに惹かれ、西ノ島町に興味を持っていたでいます。しかし、いざ移住を考えると離島というのとはとても大きなハードルになるようです。



定住に関する相談風景



モデルハウス 西風

本土からフェリーへ渡るときの乗船時間や乗船料金、フェリーへ車を乗せていくことはできるのか、保育園や学校、商店の数、病院の診療科目、本土の病院との連携（ヘリポート設備があり、救急搬送ができるか）など、移住に意欲的な人ほど細かく質問されます。

そのような方々に向け、西ノ島町での暮らしを体験するためのモデルハウスを2棟用意しており、離島の暮らしを体験していただいています。実際、西ノ島町での生活を体験し、西ノ島町への移住をご検討いただくことも可能です。

その5

住宅支援（助成金・減免措置等）

●西ノ島町賃貸住宅家賃助成金

- ・賃貸住宅（町内にある全ての住宅）の家賃助成
- ・交付対象者：就学前の子どもがおり、かつ所得税を納めていない世帯で、事業主等より支給される住宅手当を控除した額の1/4を助成
- ・町営住宅家賃助成金

交付対象者：町営住宅家賃から、事業主等より支給される住宅手当を控除した額が5万円を超えているものに対して、その超えた額を助成

●西ノ島町営住宅及び特定優良賃貸住宅（特公賃、地優賃）に関する減免等

- ・地方税法で定める市町村民税非課税世帯：家賃の1/4を減免
- ・生活保護法による被保護世帯：住宅扶助限度額を超える額
- ・災害対策基本法に定める被保護世帯：家賃の1/2に相当する額以内で、町長が別に定める額

●町営住宅におけるその他減額事例

- ・年度途中で左記の事例に該当される方は、家賃の再算定を行います。ただし、すでに一番安い家賃の方はそれ以上減額とはなりません。
- ・子どもが生まれたとき
- ・世帯員が増減したとき
- ・転職又は退職により著しく所得が下がったとき
- ・障がい者として認定されたとき
- ・寡婦（寡夫）となったとき

※該当する方は、証明書類とともに申請書類を提出していただきます。

その6

イターン者の声

武藤さん一家(定住11年目)

武藤さんご一家は、神奈川県逗子市より、体験漁業として家族全員で1週間西ノ島町に滞在し、平成16年11月から移住されました。移住後、産業体験事業で1年漁業に従事した後、漁師として定住を決断されました。

移住を考えはじめた理由を尋ねると、島暮らしをしたいという気持ちはもとも持っており、自然の中で子育てがしたいという思いはあった。そんな時、東京で行われていたU・イターンフェアへ出向いた際、いくつかの県に話を聞いたところ、島根県の担当者の温かい人柄に触れたことも移住をしようと思った一つのきっかけだったと語られました。

武藤さんが、体験漁業で西ノ島町に滞在していた時、大きな台風が西ノ島町を直撃しました。船は欠航し、ラインである水や電気が長時間止まったり、各所に大きな被害をもたらしました。



体験漁業からUターンしまね産業体験事業の後、漁師として定住

近年には例のない被害をもたらした台風を経験した武藤さんでしたが、島へ暮らすことには、多少不便なことや物価が高いことなど覚悟はしていたし、滞在中に台風を経験したのは、逆に良かったのかもしれないと言います。

「自然の怖さや大変さを経験し、多少の不便を受け入れることで、特別困ったと感じることはあまり無い。自然の中で子どもたちを育てることが叶い、地域の方々の温かい言葉や優しさに触れることが出来、移住して良かったと思う。」と、笑顔で話される武藤さんからは、定住生活11年間の思いが感じられました。

丹野志摩さん(定住21年目)

丹野さんは、平成6年に撮影旅行に訪れた際、「この島を撮りたい！でも、この島を撮るなら暮らさなければ！」と西ノ島に一目惚れ。平成7年7月に、千葉県から単身移住されました。

「島民の方々の温かさに支えられ、日々充実した暮らしをさせて頂いてます。しかし、20年前に単身でのイターンは珍しく、目立つ事が多く、いろいろ噂を立てられたのが辛い時期もありました。」と、20年を超えた西ノ島の暮らしを振り返られました。

そんな丹野さんは、現在、西ノ島町の様々なグループに入り、積極的に活動を行われており、現在の目標は、島出身の方々が帰省したくなるような写真を撮り続け、あわせて島の魅力を全国へ伝えたいとのことでした。

移住から20年を超え、しっかりと西ノ島へ根を張り、定住を果たした丹野さん。これから移住を考える方へ、いくつかの心得をお聞きしました。



移住を考えている方へのアドバイス

・気候の良い時に来て移住を決めるのではなく、大時化の船が全便欠航するような冬場を1度体験した方が良い。

・温かく迎え入れて欲しい、だけど干渉はしてほしくない…みたいな都合の良い考えは島暮らしでは難しい。温かさ/気遣い⇨干渉/お節介(これが島暮らし)

・イターンを募集しているからと引越して来るのではなく、離島において、これだけのライフラインを確立し、ここまで暮らし良くなるには行政の力だけではなく、島民の方々の努力の結果だと感じる。住まわせて頂くという謙虚な気持が必要だと思っ。

武藤さん、丹野さんへのインタビューを通し、島へ移住・定住するには、島での生活を体験し、生活環境を知ることや謙虚な気持ち、周りの方々へ自分から歩み寄る姿勢が大事だということがわかりました。

お話を聞いてみて、初めてわかることや考えさせられることがたくさんあり、とても勉強になりました。

ご協力に感謝いたしますとともに、御礼申し上げます。